

タイでの実習も折り返しを迎えました。充実しているためか、あっという間、というよりはまだ半分かという感じです。5日目は午前中にカオヤイにある有機酪農家を訪問した後、再びバンコクへ移動しました。

まず朝起きると部屋中で異臭がすごく、臭いもとを探すとベッドの下で前日に買ったレッドブルの瓶が割れて中身が散乱していました。前日の晩にベッドの上に袋ごと置いてそのまま寝落ちしてしまい、寝ている間にベッド周りで色々あったようでした。寝ている間に蹴って落としたのかなと思ったのですが、どういうわけかベッドの上のかけ布団も濡れていました。足で蹴って割れるようなものではないのですが、割ってから落ちたのか、落ちてから割れたのか、今でも不思議でなりません。タイのエナジードリンクは日本のものより栄養ドリンク特有の匂いが強く、何とも言えないもやっとした寝起きとなりました。

まず連泊となったホテルで 7:30 に朝食をいただきました。耕野先生と稲垣君だけスイカの代わりにドラゴンフルーツにあたっており羨ましい限りでした。前日のカオヤイ国立公園での昼食でもスイカが出ましたし、南国フルーツの宝庫タイでも日本同様、安く手に入るスイカは夏に重宝されています。のどが渴けばフルーツで水分補給とは贅沢ですね。リゾート地でもあるカオヤイは、豊かな自然と地元の方も観光客も迎合する屋台、洒落た飲食店が多く立ち並ぶ、非常に落ち着きのある地域でした。

その後、カオヤイのホテルを出発し、車で 30 分ほどにある有機酪農家を訪問し、オーナーにお話を伺いました。オーナーとは事前に連絡が取れていなかったようですが、耕野先生が突然にも関わらず、視察の依頼をお願いし、オーナーは快く対応いただきました。ここではタイで初めて有機認証を得た乳製品工場と 15~20 頭を飼養する酪農家が隣接しています。30 戸ほどの周辺農家が手を組んで運営されており、年々参加農家の数は増えているそうです。生乳出荷はこれ以上拡大するつもりはないとのことでした。そこには有機酪農の市場拡大の難しさと、ブランド商品として十分認知されている点にあると考えました。タイでは有機の牛乳は非有機に比べ 1.25 倍ほど高値で売られ、健康意識の高い消費者に需要があるそうです。



【写真】訪問した酪農家の様子

ここでは乳製品工場からの清掃排水を利用しエビの養殖を行うリサイクルシステムが導入されていました。システムの詳細はよくわかりませんが、乳製品工場の排水が、最後にエビ養殖につながるという点で、非常に興味深いリサイクルシステムだと思います。システムの運営には、土地と設備投資費用がかかりますが、エビは高級レストランで取引され収入源となっているそうです。また飼料は80%を自給していました。

こうした方法により、昨今のウクライナ情勢に伴う飼料価格の高騰の経営への影響はほとんど受けず、安定的な生産が可能とのことでした。これは冬のある北海道とは違い、タイでは通年で飼料生産が可能になることが大きな要因だと思います。こうした点も、有機酪農の社会的なメリットなのかと考えました。飼料の自給は理想的ではあるものの、小規模だからこそ実現しやすく、大規模酪農での導入についてはコストや経営面から検討していかなければならないと感じました。



【写真】エビの養殖について説明を受ける学生と牧場のオーナー（右端）

オーナーに話を伺ったあとは実際に牛乳の飲み比べを行いました。ヨーグルトなども食べましたが、甘さがある点が、日本の乳製品との大きな違いかと思いました。有機酪農家を出発し、バンコクに向かう道中のレストランで昼食をとり、1、2日目にも泊まったチュラロンコン大学の施設に帰ってきました。最終日のスライド発表の準備のため、晩御飯は本実習で初めて学生だけでフードコートで、簡単に済ませました。

5日目は、タイの有機酪農家や循環型農業など、革新的な農業システムの1つを学び、環境、マーケットの観点からや北海道はじめ、日本の酪農に活かせないかなど、様々な視点から考察することができました。明日からはまたバンコクでの実習が続きます。

海外実習 5 日目。今日は午前中にバンコク市内にある F A O、午後にカセサート大学を訪問しました。

昨夜コンビニで購入したクロワッサンを食べて朝食を手早く済ませた後、午前 9 時にホテル前で皆と合流し、ミニバスに乗って FAO に向けて出発しました。しかし予定時間より 30 分ほど早く到着してしまい、その場で停車し続けるわけにもいかなかったことから、時間調整のために車から降りて周辺の町中を散策しました。町中には何台ものテックテック（小型の三輪車タクシー）が止まっており、多くのドライバーから「乗っていかないか。」と話しかけられました。そこで驚いたのは、ドライバー全員が自分たちを見るとすぐに日本語で話しかけてきたことです。他にアジア人の観光客はたくさんいるはずで、少なくとも一回くらいは日本以外の国籍の人と間違えられてもおかしくないと思っていたのですが、誰一人間違えることなく日本語で話しかけてきて、一目ですぐ分かるものなのかと関心を持ちました。またそこで改めてタイの主要産業が観光業であるということ思い出しました。テックテックのドライバーも競争相手が多いため、収益を得るためには人種や言語の違いといった障壁を乗り越えて積極的に客寄せ（営業活動）をしていく必要があるのだなと思いました。

そうして 30 分ほど時間を調整後、10 時頃に F A O の構内に入りました。建物の外側は高い塀で囲まれ、またパスポートの提示や機械での服装・荷物の検査も行われ、これまで訪問してきた場所とはかなり違った緊張感が漂っていました。会議室に入って自己紹介を終えた後、F A O の歴史や業務、世界農業遺産認定などの活動、東南アジアにおける家畜感染症対策などについてのお話を聞きました。日常ではほぼ関わることなく、知る機会の少ない FAO について直接お話を聞き学ぶ機会を得ることができ、自分自身 FAO の活動に対してより興味を持つことができました。



写真：FAO の会議室

午後は FAO を出発後、そのままカセサート大学に向かい、大学の食堂で昼食を取りました。キャンパス内はとても広く、どこを見ても学生ばかりで、その規模に圧倒されました。学生数は約 3 万人だそうです。

昼食後は日本ハムのタイでの事業についてお話を聞きました。タイから他国、特に日本に多くの鶏肉が輸出されているということや他国にある多数の支部との製品加工プロセスを分業しているということなどについて知り、タイと日本・他国との間に日本ハムという企業を通した大きな繋がりがあるということに気づくことができました。

その後はカセサート大学の学生・先生方に大学構内を案内してもらいました。学内を見学するなかで学生が経営を行っているカフェや、学生が従業員として働きながら接客を学ぶホテルなど、大学構内に実践的な知識を蓄積できる場所が多くあるということを教えてもらいました。チュラロンコン大学で就農を考える学生に支援を行っているという話を聞いたときと同様に、カセサート大学でも大学側が積極的に学生の実践的活動をサポートしている感じが感じられました。

今日一日のなかで大きく印象に残ったのは、「タイと他国との繋がり」についてでした。FAOなどの国際的な機関から民間企業や個人事業まで様々なかたちで人・文化・物・経済が繋がっているということを学び体感し、自分自身今日だけでもタイという国を色々な視点から見る事ができたと思います。とても良い経験になりました。

明日は海外実習最終日で、チュラロンコン大学にて最終報告会を行います。皆まだ発表用のプレゼンテーションが完成しておらず、今晚は必死になって作成する予定です。焦りと緊張がありますが、事前準備をしっかりして乗り切ろうと思います。



写真：カセサート大学構内に



チュラロンコン大学での
プレゼンの様子

今日はいよいよ最終日で、お世話になったスパワン先生のいらっしゃるチュラロンコン大学でプレゼン(最終報告会)がありました。少し緊張していたのと、PowerPointのスライドと原稿づくりに追われ、前日は3時間ほどの睡眠で本番を迎えました。最後まで手のかかる私達でしたが、先生方も夜遅くから当日の朝までアドバイスを下さったので本当に有難かったです。最後の夜だということにバタバタしてしまいましたが、振り返ると充実したとても楽しい7日間でした。帰国するのが本当に名残惜しいですが、この海外実習に参加し、貴重な経験をさせて頂けたことに、先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

プレゼンの方では、私は3日目の訪問先である「Khao Yai The Mongo House Farm」について取り上げ、日本とタイのマンゴー生産を比較しました。私の出身地は宮崎県で、タイと同じくマンゴー生産

産が盛んな地域だったので何か地元に関係のあるものにしたいと、このテーマを選びました。しかしタイと日本ではそもそもマンゴーの生産量の違い、食べる頻度や価格にもかなり差があったので、同じ条件で比較することができなかったのが反省点です。また今回のプレゼンで一番学んだのは「英語」の大切さです。この滞在中バンコクやカオヤイの様々な人々とコミュニケーションを取りましたが、ほとんどの人が英語を理解し流暢に話すことができていました。一方で私は小学校高学年から大学にかけて英語を学んできたのに、相手の話していることをなんとなく理解し、単語をつなげて幼稚な文しか話すことができず。もっと日頃からアウトプットする機会を作る必要があると身を持って体感しました。

他の学生のプレゼンについて軽く紹介すると、細川君が「Globally Important Agricultural Heritage System and Sustainable Rural Development by Water Buffalo」、井上さんが「Protection of Wildlife in Khao Yai National Park」、稲垣君が「Organic Dairy Farming Promotes Sustainable Food Production」というテーマのもと、みんなで全力でプレゼンをやり切りました。拙い英語で内容もまだまだ不十分なところがありましたが、スパワン先生をはじめ、先生方も熱心に聞いてくださり、最後まで頑張ったと心から思っています。

午後は最後のアクティビティで、バンコク三大寺院と言われる観光スポットの「ワットポー」を見に行きました。私は海外のお寺に行くことが初めての体験だったのですが、厳格な雰囲気は漂っており、境内も服装やマナーに厳しかったです。有名な涅槃物(ねはんぶつ)は中央の礼拝堂にあったのですが、全長49メートル、高さ12メートルの巨大な像で日本の大仏と似ていました。また境内を歩いていると一番聞こえたのは日本語でした。まるで日本にいるような感覚になるほど、日本人観光客がとても多かったです。8日間滞在してみて、タイは物価も安いし、料理も日本人好みで、海外旅行にはもってこいの国だと思います。必ずまた訪れたいと思うほどタイが大好きになりました。



ワットポー近くのチャオプラヤ
ー川にて

また同時にタイは私達が思っているほど途上国ではなく、水などのライフラインもしっかり整備されていました。世界にはまだまだ知らないことがあふれていますが、今後少しずつ体験して経験と学びに変えていきたいです。



タイでの最後の食事

最後の観光が終わるといよいよ空港に移動し、出国の準備をしました。まず初めに空港1階のフードコートに行って各々好きな料理を頼みました。このフードコートではお店ごとにお金を払うのではなく、先にプリペイドカードにチャージしてから使います。200バーツ（約800円）ほどあればおなか一杯食べることが出来るでしょう。

私は豚の角煮をご飯にかけてたようなものと、肉団子入りのスープにフォーのような麺が入った優し

い味のスープをオーダーしました。滞在中はせっかくだからと思う存分スパイシーなタイ料理を食べていましたが、最後は胃にやさしそうなメニューで体調を整えることにしました。どちらも予想通りの味で、出国前の最後の現地飯としてふさわしい夜ごはんとなりました。夜ごはんを食べた後はチェックインを済ませて荷物を預け、空港で各々最後の買い物をしました。私はそこで機内で食べるカットフルーツと、楽な服装に着替えたかったのでタイパンツを購入しました。本当はもっと買いたいものはあったのですが、手荷物検査が厳しく、少量しか買うことが出来ませんでした。次回は余分な着替えを省いて、森田先生のように必要最小限の荷物で渡航したいです。

最後にこの実習を振り返って、私が特に印象的に残っている学びは「何事にも興味を持つ大切さ」です。色々な場所で様々な方のお話を聞いた8日間でしたが、私はどの場面でも「教えてください！」という姿勢で話を聞くように心がけていました。特に今の私は語学が不十分なので、それ以外で積極的な姿勢を示さなければ相手に興味を持って話してもらえないと考えたからです。このようなマインドで接していると、相手も呼応するように熱心に語りかけてくれることに気づきました。これは大きな学びになり、今後社会でも必要な力だと考えています。今回の海外実習で学んだ全てのことを活かし、残りの学生生活、そして卒業後の進路に役立てていきたいです。

最後になりますが、今回お世話になったスパワン先生をはじめとするタイの皆様、そして私達を引率して下さった耕野先生、岸本先生、森田先生、本当にありがとうございました。



搭乗前の様子

昨夜の 23:55 発の飛行機でタイのスワンナプーム国際空港を出て、7日 8:00 に成田国際空港に到着しました。帰りの飛行機の中から見えたバンコクの夜景がとても綺麗でした。また、朝日が 3:30 頃に見えたそうですが、私は寝ていたので見られませんでした。約6時間のフライトでしたが、疲れていたせいか、行きのフライトよりも、ずっとあつという間に感じました。全員無事に入国手続きを終えて、成田空港で解散しました。そのまま帯広に帰る生徒もいれば、本州の実家に帰省する生徒もいました。

台風が日本に近づいており、あと一日、タイからの帰国が遅れていたら、大変なことになっていたと思います。



写真：飛行機から見たバンコクの夜景

一週間の海外実習は、とても貴重な経験になりました。私は海外に行くのは初めてでした。不安でいっぱい、現地で英語を使うことにとっても緊張しました。そして、周りの学生や先生が積極的に英語を使って会話している姿に何度も引っ張られ、影響を受けました。



写真：英語による最終報告会の様子、
報告時間は10分、質疑応答は5分

私の最終報告のタイトルは「Protection of Wildlife in Khao Yai National Park」でした。実習で訪問した自然公園管理の方法について英語でまとめ、自分なりに今後の方策について英語で説明しました。

最終報告の時にチュラロンコン大学のスパワン先生が言ってくださった言葉が印象的でした。「英語は毎日使っていくことで上達する。間違えることを恐れてはいけない。英語を話すことは、上達する近道だから、周りにいる留学生に積極的に話しかけてほしい。そして、海外に行って、英語を使わないといけない状況下に自分をおいたりしてみしてほしい。異なる国の人々と、英語を通してつながることがで

きるのは、素晴らしいことだよ。」という内容だったと思います。この実習を通して、英語という共通言語で、たくさんの方とコミュニケーションを取ることができ、それにより、自分の可能性をより拓くことができると感じることができました。

これは友達と旅行に行っても感じることをできない成長だと思い、改めて、海外実習に参加して良かったと感じました。来年からも、もっともっと多くの生徒に参加してほしいと思ったし、また、この実習について後輩に報告することも参加者としての役割だと思いました。

最後になりましたが、耕野先生・森田先生・岸本先生、最終報告会の準備に、夜遅くまでご指導いただき、大変ありがとうございました。おかげ様で、無事、英語でプレゼンテーションすることができました。TAの高木さん、学生の皆さん、一週間大変お世話になりました。ありがとうございました。



写真:バンコクでの昼食、注文は英語で行いました